

制度融資は本当に中小・零細企業のためになっているのか

昭和42年 1月26日第3種郵便物認可 第43巻第10号 平成20年10月 1日発行 発行所 株式会社太陽 札幌市中央区大通西28丁目

道民雑誌

10
2008

クオース

ハリケーン衆院選 自民・民主本道小選挙区 12議席争奪戦の行方

町村信孝、鳩山由紀夫、中川昭一、鉢呂吉雄、今津寛ら政局のキーマンに聞く

札幌国税局長・横山恒美氏「正直者が馬鹿を見ない」が信条です

新たな開発局談合の火種!?STVグループで囁かれる疑惑

選挙区改正で民主抵抗「難航する支庁条例」の実行

金融変調!!新理事長に信金力を問う(北空知・阿部利雄氏 日高・高田豊則氏)

「手爪」経営術の表と裏の研究 加森観光・加森公人社長、モリシヨ一・森昌実元社長^{ほか}

民主
現8議席

自民
現4議席



503



〈ふくだ さとし〉
1951年生まれ56歳。北海道大学医学部卒。85年米国カリフォルニア大学サンディエゴ校留学、96年北大医学部耳鼻咽喉科助教授、01年7月より現職。07年4月より北大病院副院長。日本耳鼻咽喉科学会常任理事、日本学会議連携会員。

北海道大学大学院医学研究科耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野

福田 諭 教授



〈おおさき よしのぶ〉
1954年生まれ54歳。旭川医科大学医学部卒、84年国立療養所道北病院勤務、90年米国国立癌研究所研究員、86～90年・93～97年旭大第一内科助手、97年より現職。05年1月同大呼吸器内科科長。今年5月から現職。日本肺癌学会評議員、日本呼吸器学会評議員。

旭川医科大学医学部呼吸器センター

大崎能伸 教授

療に力を入れていきたい」と大崎能伸教授は説明する。

また同大では旭川市内の

呼吸器科の医療機関と協同で、今年7月から8月にかけて定期的なアンケート調査を実施。この調査は、患者の夜間の状態や外来に来ていないときの状態を調査するもので、「患者さんの訴える症状と医師が診てい

る症状のギャップを診ることができれば、より実態に即した治療ができる」と大崎教授。

そのほか、道北、道央地方でみられる花粉アレルギーと喘息発作の関連性について研究しており、シラカンバ花粉症は重症の喘息発作になりやすいことが分かっている。

くしゃみ、鼻水、鼻づまりの アレルギー性鼻炎

●各大学の研究

北大耳鼻咽喉科・頭頸部

外科学分野では、シラカンバ花粉症について資源適合仮説に基づく翌年の花粉飛散予測を実施し、良好な結果を報告している。

資源適合仮説は「花粉飛散量が気象条件に関連した資源獲得量に依存している」という説で、前年の5

月、6月のエネルギー供給量が翌年の花粉飛散量に重要な因子となる。

シラカンバ花粉は年によって飛散量が大きく変化し、大量飛散年にはシラカンバ花粉患者が増加し、花粉症の症状も増悪する。こうしたことから「花粉飛散量を前もって知ること、季節前に投与し、発症を予防する、あるいは症状を抑

えることもできる。現代医療の大きな流れは高度先進医療と予防にあり、この仮説は予防の面で貢献できる」と福田諭教授は語る。

アレルギー疾患の根治的な治療として減感作療法が挙げられるが、長期通院を要する、副作用が出るといった短所がある。これを補う治療として現在注目を集めているのが「舌下減感作療法」だ。

これは抗原液を注射する代わりに舌下エキスを舌下にのせるだけのもので、自宅での治療が可能となり、現在のとこ副作用もほとんど報告されていない。

同分野の中丸助教は千葉大学と共同で、舌下錠の有効性と安全性を検討する臨床研究を06年10月から行っており、現在データを解析中。簡便であり、なおかつ根本治療に結びつくだけに期待が寄せられている。

またアレルギー性鼻炎予防を目的に「ヒストン脱アセチル化酵素（HDAAC）の働き」に着目。酸化ストレスがアレルギー反応を増悪させるとされているが、同大が研究した結果、酸化ストレスにHDAACが関与することが分かった。さら

に酸化ストレスによりIL-4遺伝子発現が増加し肥満細胞において、アレルギー反応を増悪させていることも突き止めており、アレルギー疾患の予防に向けた基礎研究も進んでいる。

札幌医大耳鼻咽喉科学講座では、鼻粘膜の上皮と脂質メダイエーターに着目したアレルギー性鼻炎の病態解明研究を進めている。

研究では、上皮系細胞から主に産生されるサイトカインに誘導された樹状細胞という抗原提示細胞が、アレルギーの炎症を引き起こす「マスタースイッチ」で



〈はらぶち やすあき〉
1956年生まれ51歳。旭川医科大学医学部卒。89年7月札幌鉄道病院耳鼻咽喉科医長、91年12月ニューヨーク州立大学パフアロー校医学部小児科学講座Research Instructor。93年7月札幌医科大学耳鼻咽喉科学講座講師、98年11月より現職。日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会理事等。

旭川医科大学医学部
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座

原 淵 保 明 教授



〈ひみ てつお〉
1953年生まれ54歳。札幌医科大学医学部卒。86年米国ペイラ-医科大学留学、96年札幌医科大学耳鼻咽喉科学講座助教授、99年7月より現職。パラニー学会正会員、日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会理事。

札幌医科大学医学部
耳鼻咽喉科学講座

氷 見 徹 夫 教授

「はらぶち やすあき」
1956年生まれ51歳。旭川医科大学医学部卒。89年7月札幌鉄道病院耳鼻咽喉科医長、91年12月ニューヨーク州立大学パフアロー校医学部小児科学講座Research Instructor。93年7月札幌医科大学耳鼻咽喉科学講座講師、98年11月より現職。日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会理事等。

また白崎英明准教授が中心となって、鼻づまりを引き起こす脂質メディアーター受容体の研究も継続して行っている。粘膜の血管内皮と脂質メディアーターとの関連から、鼻づまりのメカニズムを一部明らかにしている。

同大は文部科学省の知的クラスター創成事業の研究テーマ「アレルギー・炎症

反応評価による機能性食品素材開発」の研究グループに参画。鼻の粘膜に付着するウイルスが、アレルギーの発症にどう関与しているのかという、これまでよりも詳細なメカニズムについて研究を進め、いくつかの成果が出はじめています。

様々なタイプの患者にペ

また氷見徹夫教授は昨年度より副理事長として、スギ花粉疎開ツアーなどを実施するNPO法人イムノサポートセンター（理事長、西村孝司・北大教授）の活動を支援。「積極的にこれらの社会的活動に参加し、アレルギー発症予防に貢献したい」と氷見教授は語る。

菌であるP6蛋白に着目。

「今後、ペプチドワクチン療法をシラカンバ花粉症のみならず、小児の急性中耳炎や頭頸部癌などに対する治療としてヒトにも応用できるのではないか」と原淵教授は期待する。

あることが分かり、現在はサイトカイン産生を誘導する物質を調べている。

また氷見徹夫教授は昨年度より副理事長として、スギ花粉疎開ツアーなどを実施するNPO法人イムノサポートセンター（理事長、西村孝司・北大教授）の活動を支援。「積極的にこれらの社会的活動に参加し、アレルギー発症予防に貢献したい」と氷見教授は語る。

この研究でも数多くのHLAに結合するペプチドの候補を見つけ、研究成果を来年5月韓国ソウルで発表する予定。

さらに、核内ホルモン受容体であるPPARガンマのアレルギー反応抑制作用、上皮のバリア機能、抗

また氷見徹夫教授は昨年度より副理事長として、スギ花粉疎開ツアーなどを実施するNPO法人イムノサポートセンター（理事長、西村孝司・北大教授）の活動を支援。「積極的にこれらの社会的活動に参加し、アレルギー発症予防に貢献したい」と氷見教授は語る。

この研究でも数多くのHLAに結合するペプチドの候補を見つけ、研究成果を来年5月韓国ソウルで発表する予定。

北海道における花粉症の発症時期

